

5 - 6 植物

(1)現況調査

1)調査項目

調査項目は、以下のとおりとした。

- ・種子植物その他主な植物に関する植物相及び植生
- ・重要な植物種及び群落
- ・生育環境

2)調査期間

調査期間は、表 5 - 1 2 5 に示すとおりである。

表 5 - 1 2 5 植物の調査期間

調査項目	調査期間
植物相	春季：平成14年4月23日～24日
	夏季：平成14年8月1日～2日
	秋季：平成13年11月27日～28日
植生	夏季：平成14年8月1日～2日

3)調査地域

調査地域は、図 5 - 5 6 に示すとおりであり、対象事業実施区域及びその周辺区域とした。

4)調査方法

調査方法は、表 5 - 1 2 6 に示すとおりである。

表 5 - 1 2 6 植物の調査方法

植物相	目視確認	シダ植物以上の高等植物種（維管束植物）を対象として目視による確認調査を行い、植物相を把握する。
植生	植物社会学的植生調査	調査地域の植物群落を対象に、各階層の植被率及び植物種の被度・群度などを記録し、現存植生図を作成する。



図 5 - 5 6 植物調査地域

5) 調査結果

植物相及び植生

調査の結果、66科174属261種の高等植物種が確認された。表5 - 1 2 7に植物確認種数集計表を示した。

植物群落の組成解析の結果、乾生高茎二次草原は2群落、湿生高茎二次草原は2群落、つるマントは1群落、低茎二次草原は2群落の7群落に識別された。その他、2つの植栽帯・緑地が確認された。識別された植物群落の分布については図5 - 5 7に示すとおりである。植生自然度図は、図5 - 5 8に示すとおりである。

調査地域には、自然植生は確認されず、ヤブツバキクラス域の代償植生であるアレチハナガサ - セイタカアワダチソウ群落、チガヤ - ヤマアワ群落、オギ・ヨシ群落、クズ群落、ベニバナセンブリ - メリケンカルカヤ群落、コスズメガヤ - アキメヒシバ群落と、植栽樹林帯、シバ群落（播種緑化草地）が確認された。

このうち、対象事業実施区域には、アレチハナガサ - セイタカアワダチソウ群落とシバ群落が確認された。

表5 - 1 2 7 植物確認種数集計表

		対象事業実施区域			周辺区域			全 体				
		科	属	種	科	属	種	科	属	種	帰化率(%)	
シダ植物		1	1	1	2	3	5	3	4	6	0.0	
種 子 植 物	裸子植物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	被子植物	双子葉類	12	27	27	37	76	104	37	76	107	36.4
		離弁花類	6	21	27	15	45	64	15	47	66	56.1
		合弁花類	6	23	30	11	46	79	11	47	82	32.5
合 計		25	72	85	65	170	252	66	174	261	39.3	

注) 帰化率は逸出種を含む

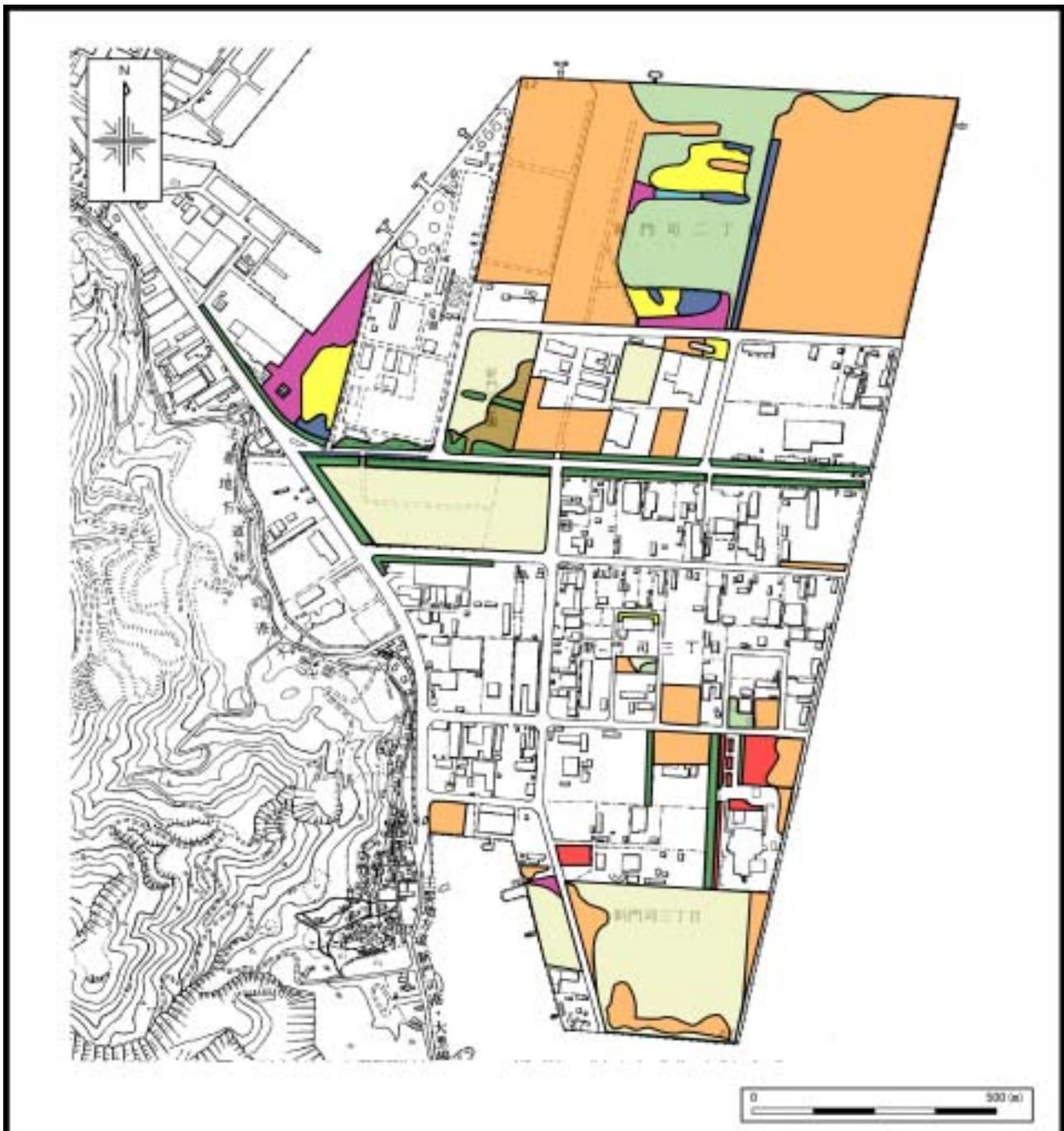
重要な植物種及び群落

対象事業実施区域周辺で、国のレッドデータブック絶滅危惧 類に指定されている重要な植物種が確認された。

なお、重要な植物群落の生育は確認されなかった。

生育環境

対象実施区域及び周辺地域は全域が埋立地で平坦な地形であり、自然植生は存在しない。特に新工場の建設予定地はグラウンドとして利用されており、草本の繁茂はあるものの刈り込みが行われ常に攪乱されており、安定した系とはなっていないが、このような状況でも自然域に比して少数ながら植栽の草本及び樹木が生育している。



凡 例

代償植生

- アレチナガリ - セイタカアワダチソウ群落
- ヨシ群落
- ベニバチセンブリ - リケンカササギ群落
- ナギ - ヤマアヲ群落

- クス群落
- 杉群落
- コスノオト - アキヒシバ群落

その他

- 植栽樹林帯
- シバ群落 (播種草地)
- 裸地

図 5 - 5 7 現存植生図

表5 - 1 2 8 植生自然度区分と現存植生の対応

植生自然度	区分	区分基準	該当植生区分
10	自然草原 (自然草原・湿原)	高山ハイデ・風衝草原・自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区(9、10は自然性の高さにおいて同じランク)	該当植生区分なし
9	自然林 (極相林またはそれに近い群落構成を示す天然林)	イゾマツ・トマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区	該当植生区分なし
8	二次林 (自然林に近いもの)	ブナ・ミズナ再生林、シイ・加萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区	該当植生区分なし
7	二次林	クリ・ミズナ群落、クヌギ・コナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区	該当植生区分なし
6	造林地	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地	該当植生区分なし
5	二次草原 (背の高い草原)	ササ群落、スサ群落等の背丈の高い草原	アレチナガサセイヤカワタチ群落、チガヤヤマアヲ群落、ササ群落、ヨシ群落、クヌギ群落
4	二次草原 (背の低い草原)	シバ群落等の背丈の低い草原	ヘビナセソフリ・メケノカ群落、コスメカヤアキシバ群落
3	耕作地(樹園地)	果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地	植栽樹林帯
2	農耕地(水田、畑地)	水田、畑地等の耕作地、緑の多い住宅地(緑被率60%以上)	播種緑化草地
1	市街地、造成地	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区	裸地、建造物、舗装道路

出典：「日本の植生 第4回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書(全国版)」(環境庁、1996年)

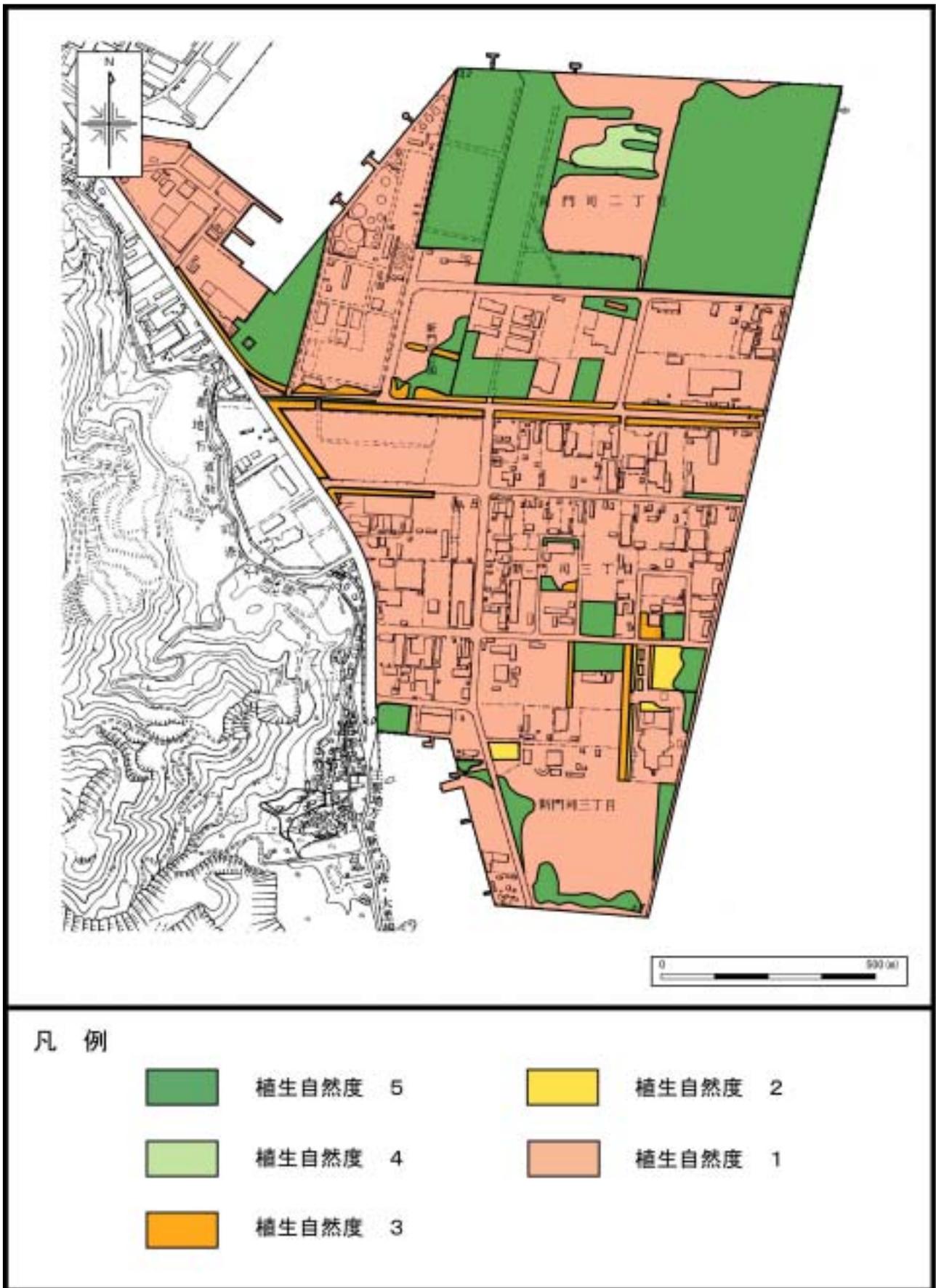


图5 - 5 8 植生自然度图

(2) 予測及び評価

1) 環境保全対策

植物については、以下の環境保全対策を講じることとする。

- ・ 現工場が解体された跡地等に、現在と同程度の緑地の確保に努める。

2) 予測

予測項目

予測項目は、重要な植物種及び植物群落とした。

予測時期

新工場の施設が完成した時期とした。

予測地域

現況調査地域と同じ、対象事業実施区域及びその周辺区域とした。

予測方法

現況調査結果及び事業計画をもとに、重要な植物種及び植物群落への影響について予測した。

予測結果

現況調査の結果、重要な植物種が確認された場所は、対象事業実施区域ではないことから本事業の実施による影響はないと考えられる。

また、対象事業実施区域には重要な植物種及び植物群落は確認されていないことから、本事業による影響はないと考えられる。

なお、本事業の実施により、新工場の建設予定地におけるアレチハナガサ - セイタカアワダチソウ群落、シバ群落（播種緑化草地）は消失し、周辺区域を含むアレチハナガサ - セイタカアワダチソウ群落は、約1.3%（0.45ha / 36.02ha）、シバ群落（播種緑化草地）は、約46.6%（0.66ha / 1.42ha）が消失することになるが、これらは主要種が帰化種の路傍雑草群落や播種緑化草地である。

3) 評価

環境影響の回避・低減に関する評価

現況調査の結果、重要な植物種が確認された場所は、対象事業実施区域ではないことから本事業の実施による影響はなく、また、対象事業実施区域に重要な植物種及び植物群落は確認されていないため本事業による影響はないと考えられる。なお、対象事業実施区域において消失する植物群落についても、現工場が解体された跡地等に、現在と同程度の緑地の確保に努めるなどの環境保全対策を講じるために、施設の存在による植物への影響は低減されると考えられる。